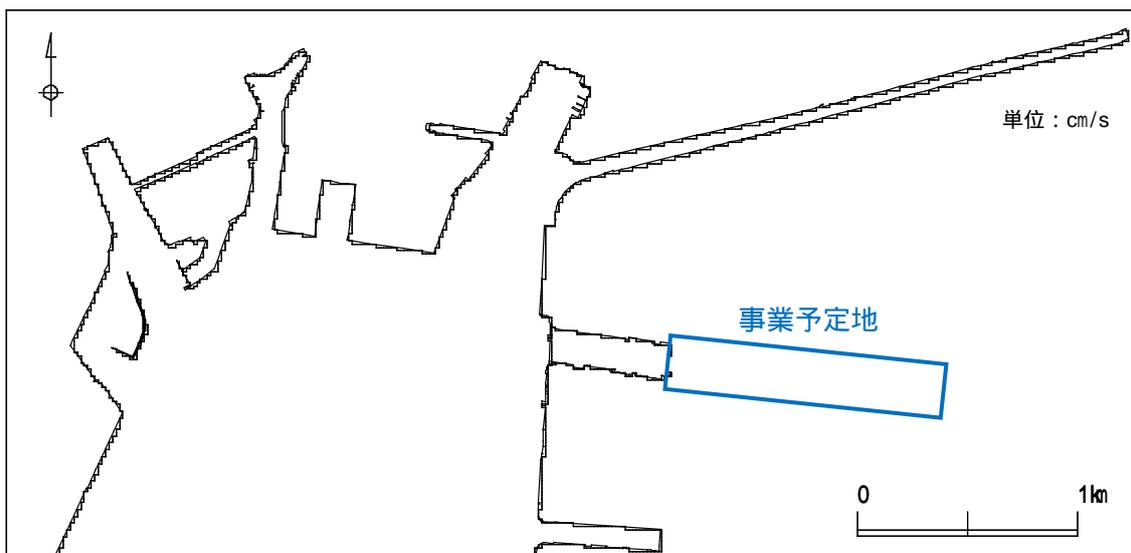


図 2-5-13(1) 防潮壁と埋立地両方の存在時の水象予測結果
 上げ潮最強時 上層 (0m ~ 2.6m)



注) 増加は実線、減少は点線。等高線は 2cm/s 間隔である。

図 2-5-13(2) 防潮壁のみ存在時、防潮壁と埋立地両方の存在時の水象変化の差分図
 上げ潮最強時 上層 (0m ~ 2.6m)

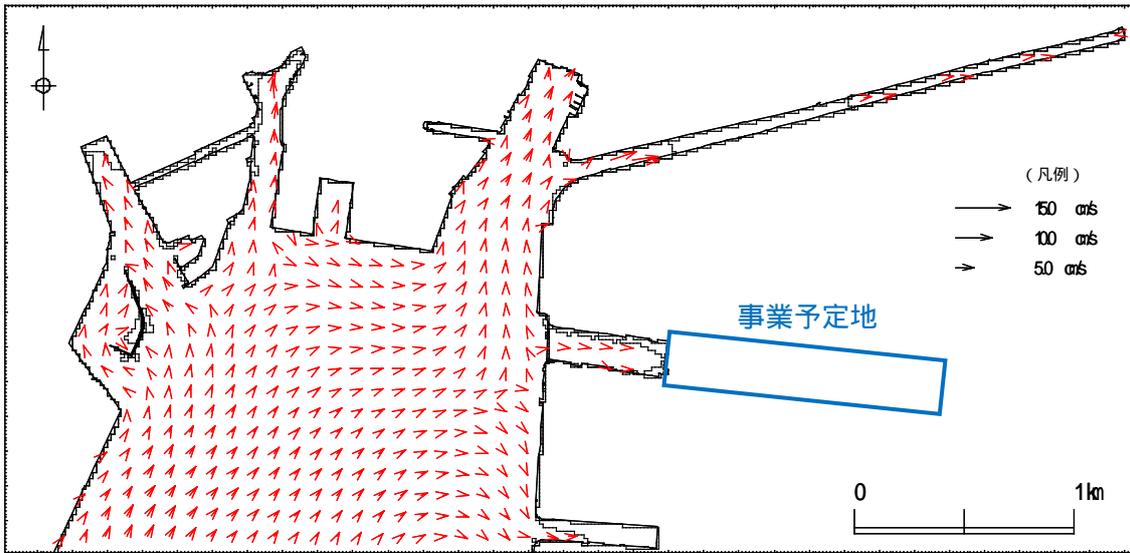
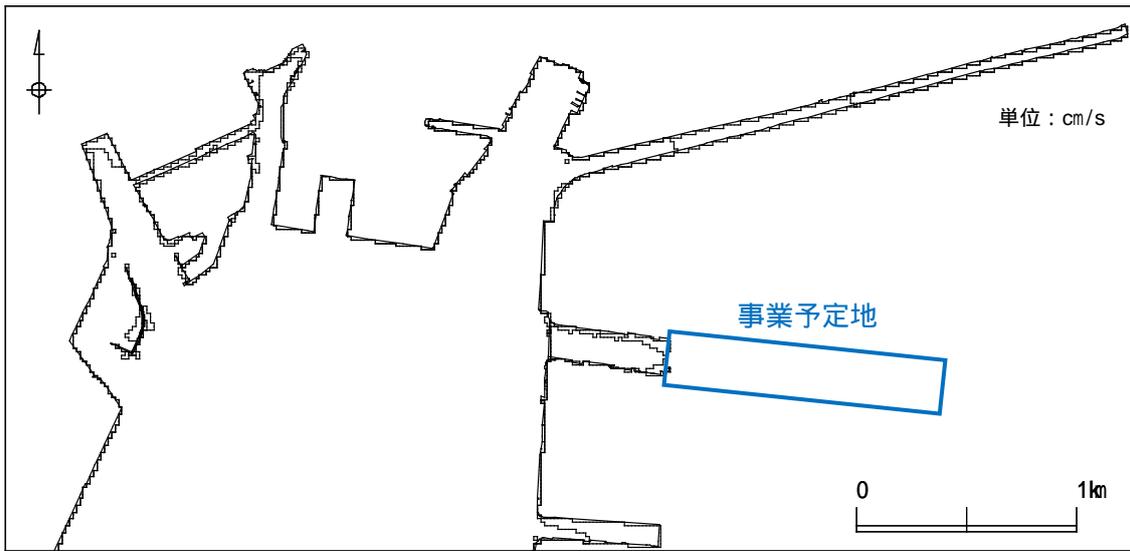


図 2-5-13(3) 防潮壁と埋立地両方の存在時の水象予測結果
 上げ潮最強時 中層 (2.6m ~ 7.0m)



注) 増加は実線、減少は点線。等高線は 2cm/s 間隔である。

図 2-5-13(4) 防潮壁のみ存在時、防潮壁と埋立地両方の存在時の水象変化の差分図
 上げ潮最強時 中層 (2.6m ~ 7.0m)

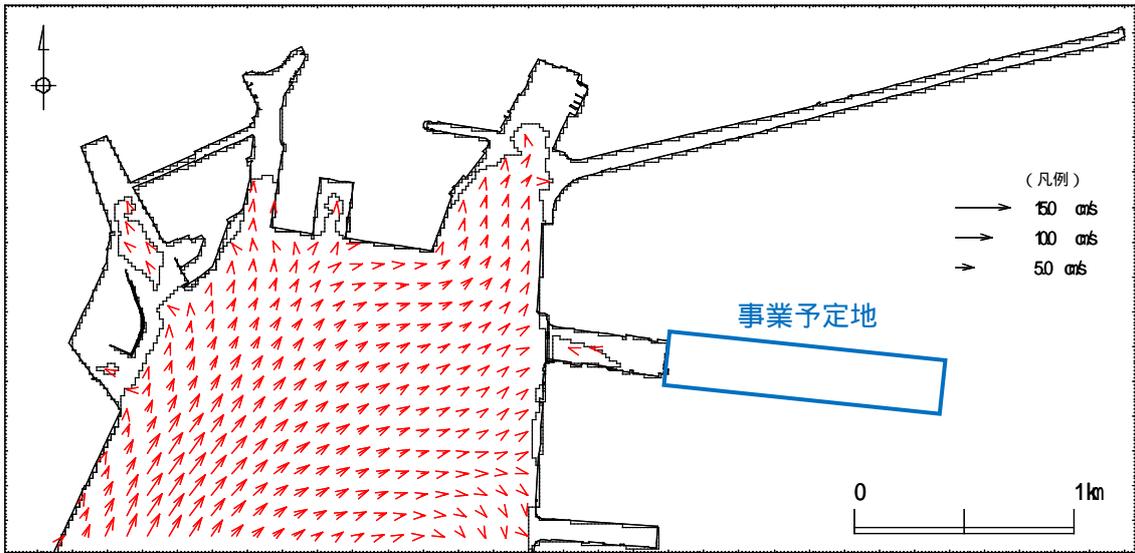
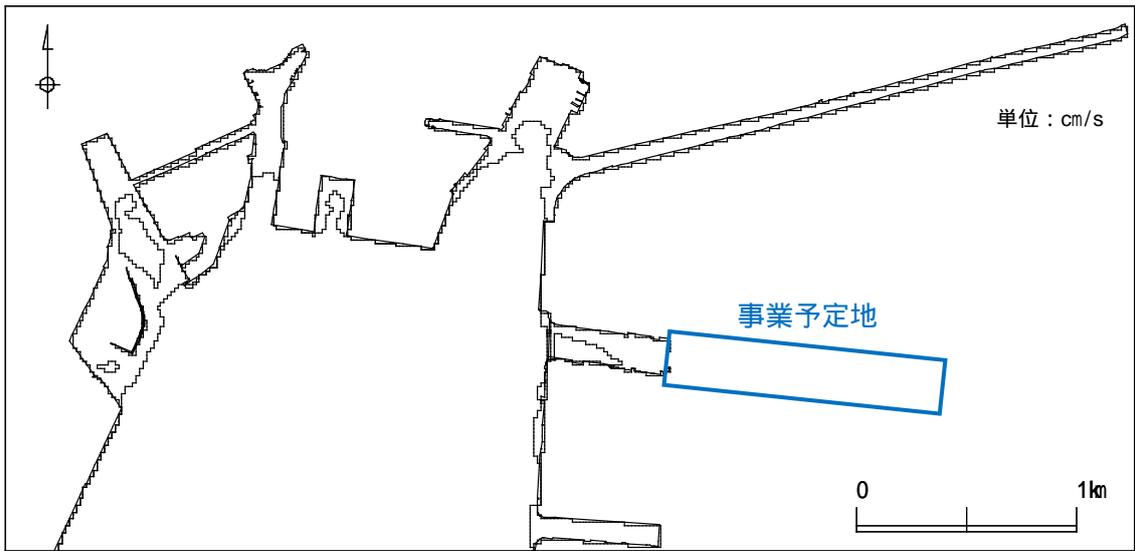


図 2-5-13(5) 防潮壁と埋立地両方の存在時の水象予測結果
 上げ潮最強時 下層 (7.0m ~ 海底)



注) 増加は実線、減少は点線。等高線は 2cm/s 間隔である。

図 2-5-13(6) 防潮壁のみ存在時、防潮壁と埋立地両方の存在時の水象変化の差分図
 上げ潮最強時 下層 (7.0m ~ 海底)

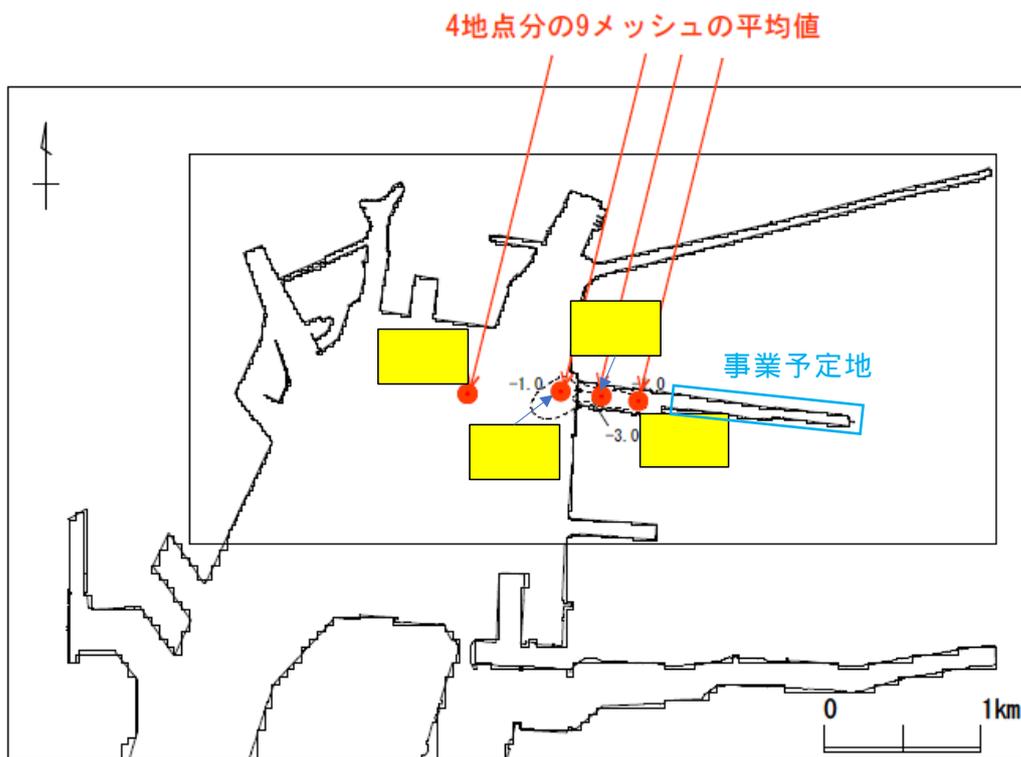


図 2-5-14 9メッシュ分の平均値算出地点

表 2-5-12(1) 9メッシュの平均値 (現況再現年次)

単位: cm/s

鉛直	地点 1	地点 2	地点 3	地点 4
上層(0m ~ 2.6m)	3.05	3.46	2.68	2.43
中層(2.6m ~ 7.0m)	0.81	1.43	0.84	1.08
下層(7.0m ~ 海底)	1.26	0.55	0.07	0.00

表 2-5-12(2) 9メッシュの平均値 (防潮壁のみ存在時)

単位: cm/s

鉛直	地点 1	地点 2	地点 3	地点 4
上層(0m ~ 2.6m)	2.36	2.22	0.54	0.76
中層(2.6m ~ 7.0m)	0.51	0.68	0.16	0.22
下層(7.0m ~ 海底)	1.70	0.81	0.01	0.00

表 2-5-12(3) 9メッシュの平均値 (防潮壁と埋立地両方の存在時)

単位: cm/s

鉛直	地点 1	地点 2	地点 3	地点 4
上層(0m ~ 2.6m)	2.66	2.57	0.49	0.67
中層(2.6m ~ 7.0m)	0.56	0.82	0.12	0.17
下層(7.0m ~ 海底)	1.59	0.79	0.01	0.00

(1) 水質 (COD)

防潮壁のみ存在時、防潮壁と埋立地両方の存在時の水質 (COD) 変化の予測結果、防潮壁と埋立地の有無による水質 (COD) 変化の予測結果は、表 2-5-13、表 2-5-14 及び図 2-5-15 ~ 図 2-5-16 に示すとおりである。

防潮壁より河川側においては、流速の低下に伴い COD がわずかに上昇している。防潮壁より海側においては、わずかに COD の増減がみられる。現況再現年次と、防潮壁と埋立地両方の存在時を比較した際の COD 増加値は最大 0.25mg/L であり、この値を現況調査結果における各地点の COD75% 値に足し合わせても、名古屋市の環境目標値 (5mg/L) を下回る。(表 2-5-14)

以上により、埋立地の存在による水質 (COD) の変化は小さいと予測される。

表 2-5-13 防潮壁のみ存在時、防潮壁と埋立地両方の存在時の水質 (COD) 変化の結果

単位 : mg/L

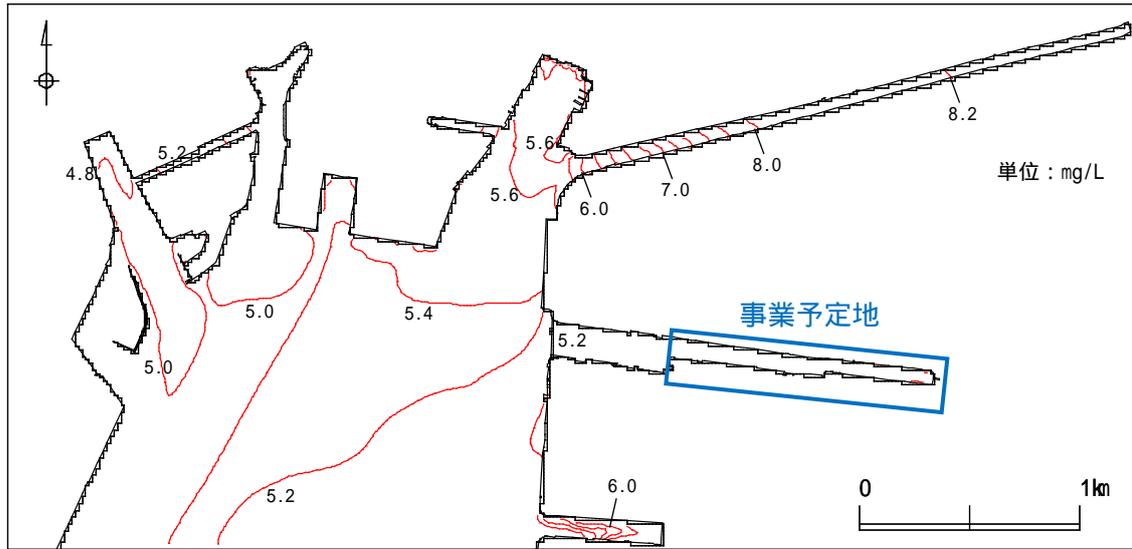
時期	層(水深)	増減幅
防潮壁のみ存在時 ^{注)}	上層(0m ~ 2.6m)	0.17 増加 ~ 0.22 減少
	中層(2.6m ~ 7.0m)	0.17 増加 ~ 0.10 減少
	下層(7.0m ~ 海底)	0.25 増加 ~ 0.07 減少
防潮壁と埋立地両方の存在時 ^{注)}	上層(0m ~ 2.6m)	0.07 増加 ~ 0.05 減少
	中層(2.6m ~ 7.0m)	0.03 増加 ~ 0.05 減少
	下層(7.0m ~ 海底)	0.02 増加 ~ 0.07 減少

注)「防潮壁のみ存在時」は現況再現年次と防潮壁のみ存在時の差分を、「防潮壁と埋立地両方の存在時」は防潮壁のみ存在時と、防潮壁と埋立地両方の存在時の差分を示す。

表 2-5-14 現況調査の COD75% 値 + COD 最大増加値 (0.25mg/L)

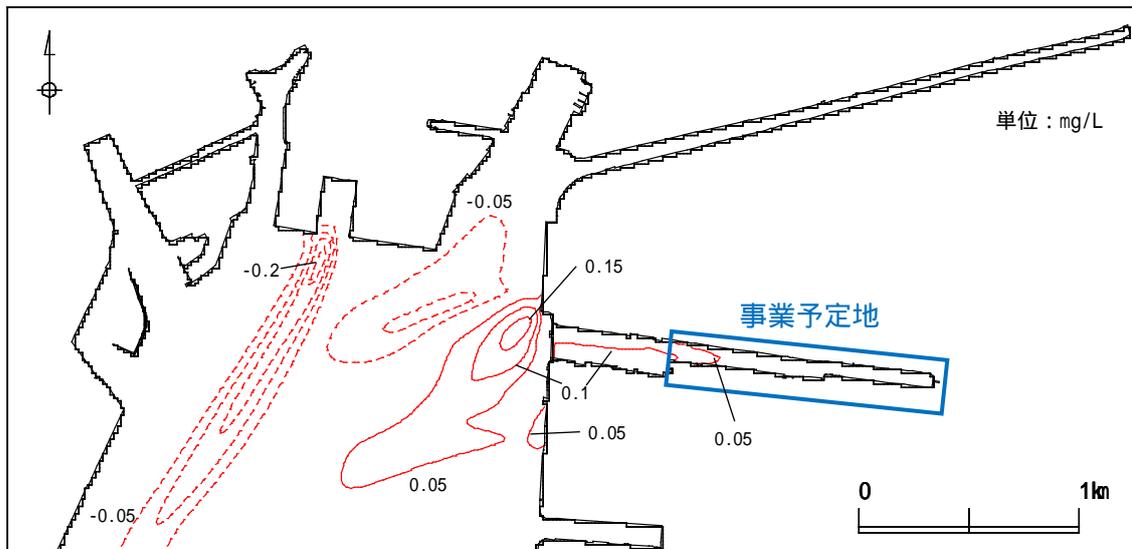
単位 : mg/L

地点	層(水深)	現地調査結果 (COD(75%値))	+0.25mg/L 値	名古屋市 環境目標値
No. A	1/2 水深	3.7	3.95	5 以下
No. B	1/2 水深	3.8	4.05	
No. C	表層(海面下 0.5m)	3.8	4.05	
	中層(1/2 水深)	2.3	2.55	
	下層(海底面上 1.0m)	1.9	2.15	
No. D	表層(海面下 0.5m)	3.4	3.65	
	中層(1/2 水深)	1.8	2.05	
	下層(海底面上 1.0m)	1.7	1.95	



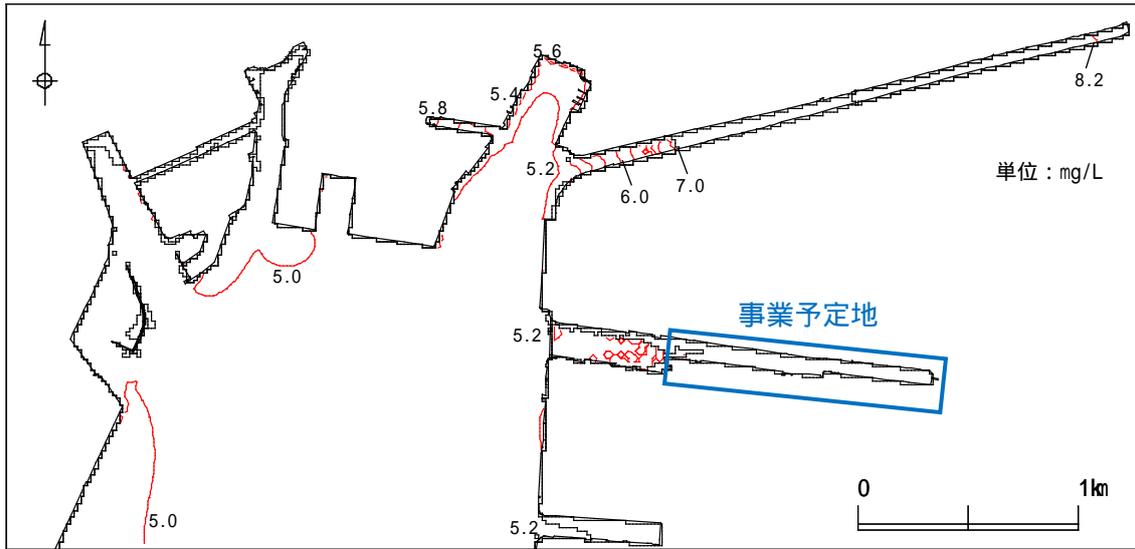
注) 等高線は 4.8mg/L 以上で 0.2mg/L 間隔である。

図 2-5-15(1) 防潮壁のみ存在時の水質 (COD) 予測結果
上層 (0m ~ 2.6m)



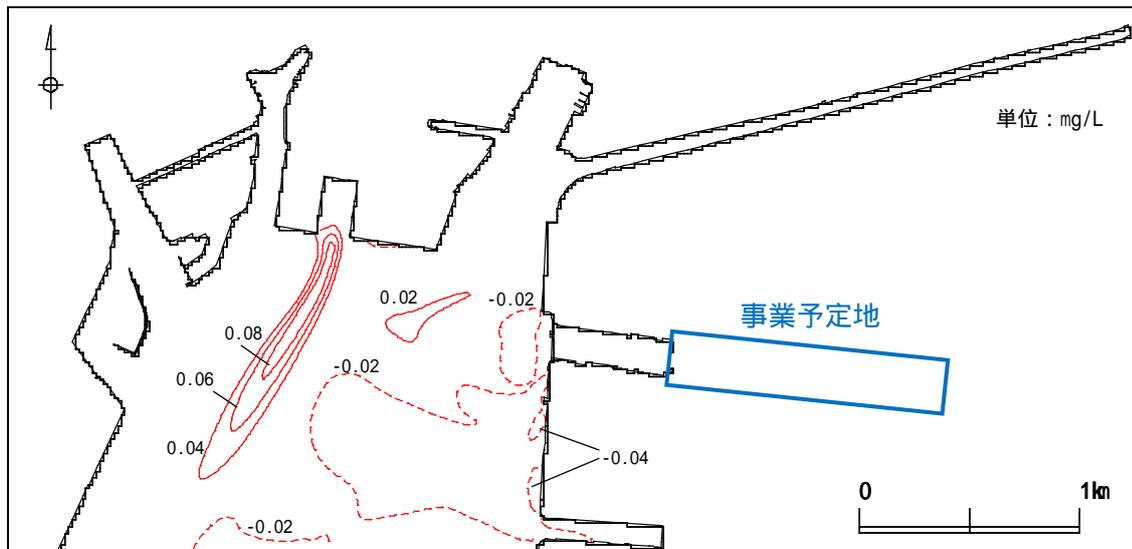
注) 増加は実線、減少は点線。等高線は 0.02mg/L 間隔である。

図 2-5-15(2) 現況再現年次、防潮壁のみ存在時の水質 (COD) 変化の差分図
上層 (0m ~ 2.6m)



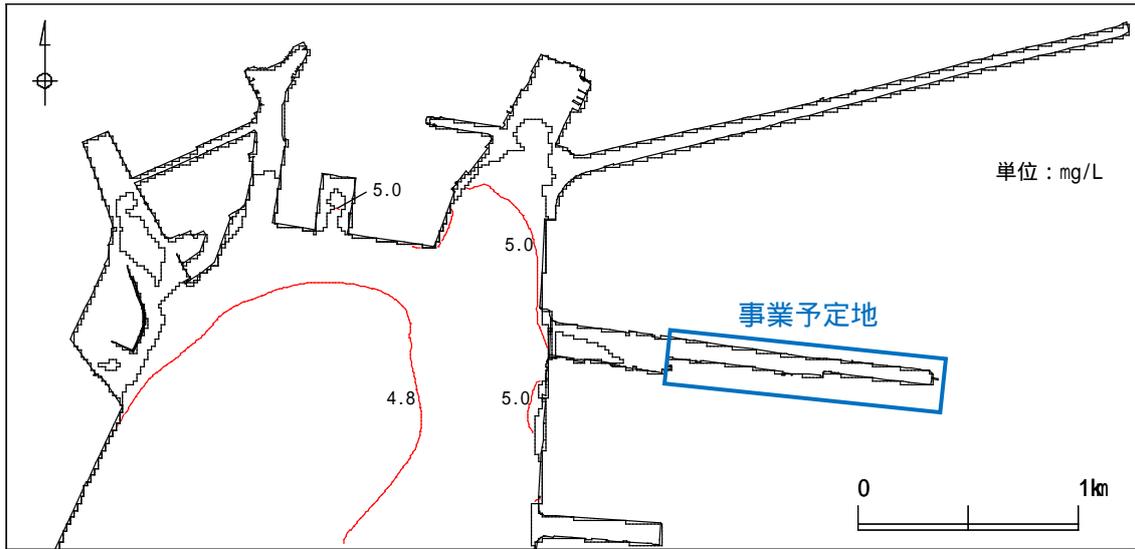
注) 等高線は 4.8mg/L 以上で 0.2mg/L 間隔である。

図 2-5-15(3) 防潮壁のみ存在時の水質 (COD) 予測結果
中層 (2.6m ~ 7.0m)



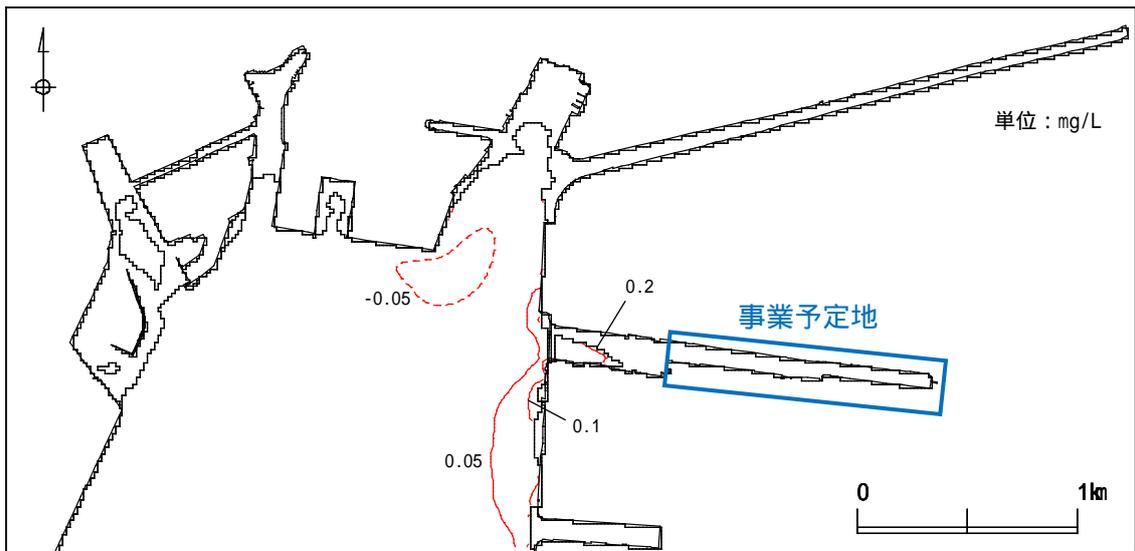
注) 増加は実線、減少は点線。等高線は 0.02mg/L 間隔である。

図 2-5-15(4) 現況再現年次、防潮壁のみ存在時の水質 (COD) 変化の差分図
中層 (2.6m ~ 7.0m)



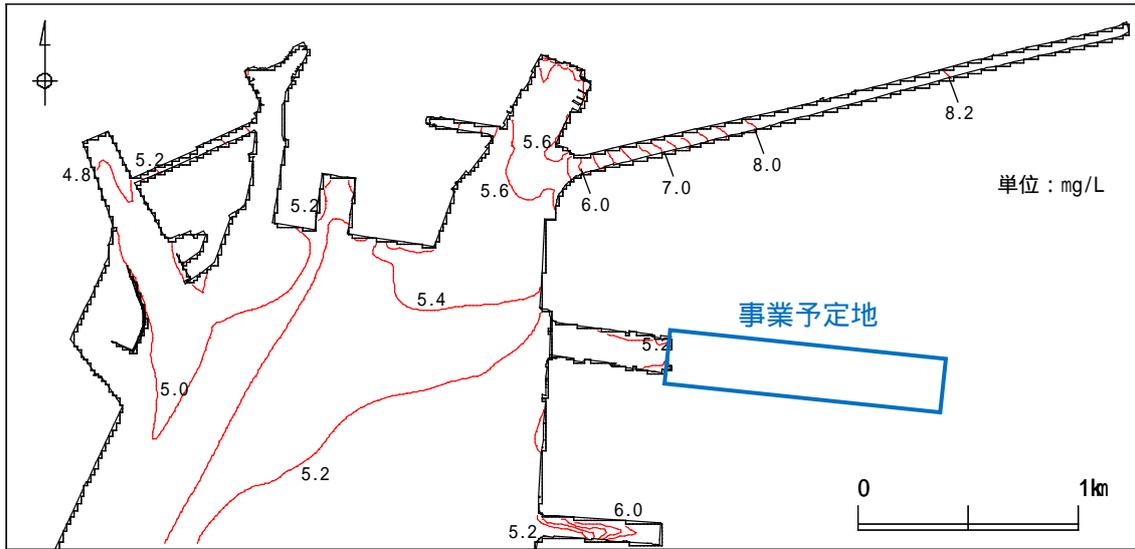
注) 等高線は 4.8mg/L 以上で 0.2mg/L 間隔である。

図 2-5-15(5) 防潮壁のみ存在時の水質 (COD) 予測結果
下層 (7.0m ~ 海底)



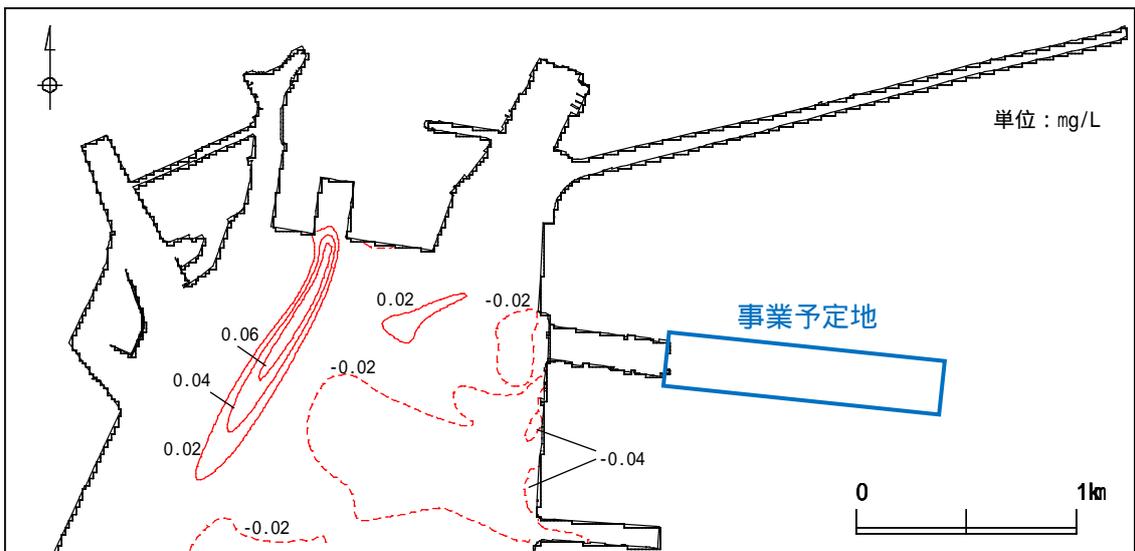
注) 増加は実線、減少は点線。等高線は 0.02mg/L 間隔である。

図 2-5-15(6) 現況再現年次、防潮壁のみ存在時の水質 (COD) 変化の差分図
下層 (7.0m ~ 海底)



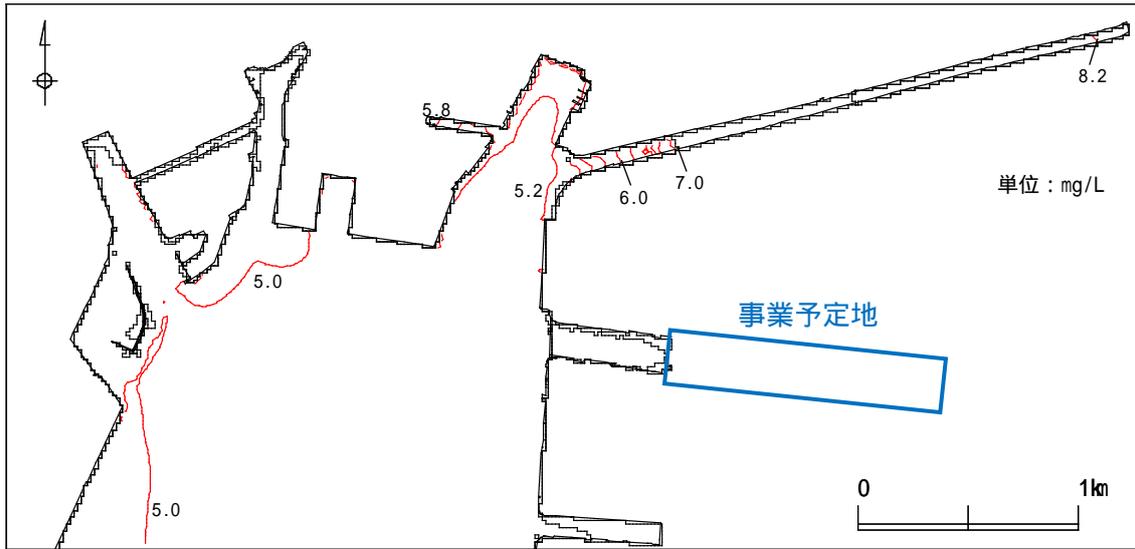
注) 等高線は 4.8mg/L 以上で 0.2mg/L 間隔である。

図 2-5-16(1) 防潮壁と埋立地両方の存在時の水質 (COD) 予測結果
上層 (0m ~ 2.6m)



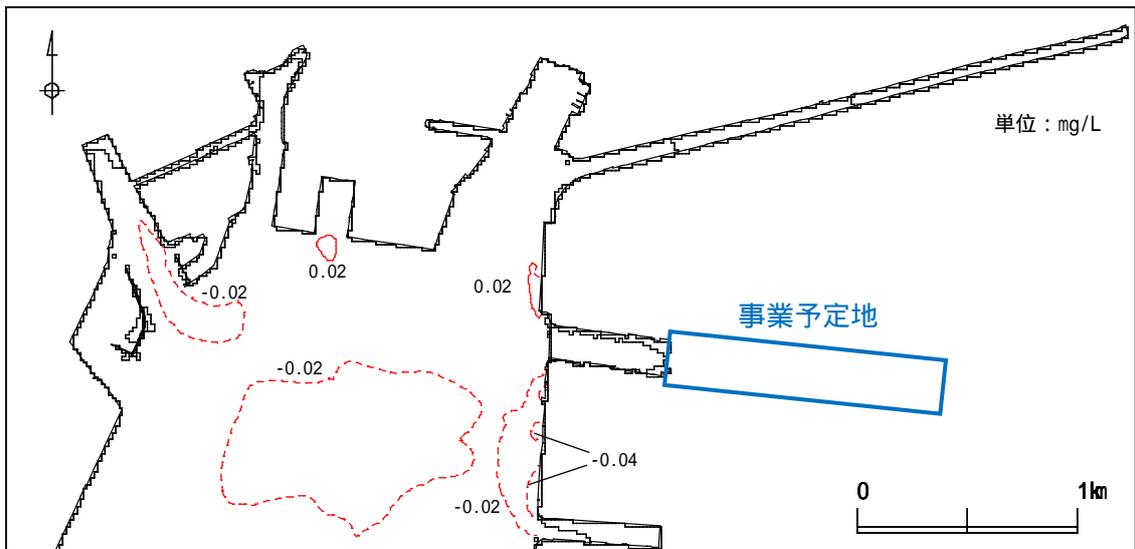
注) 増加は実線、減少は点線。等高線は 0.02mg/L 間隔である。

図 2-5-16(2) 防潮壁のみ存在時、防潮壁と埋立地両方の存在時の
水質 (COD) 変化の差分図 上層 (0m ~ 2.6m)



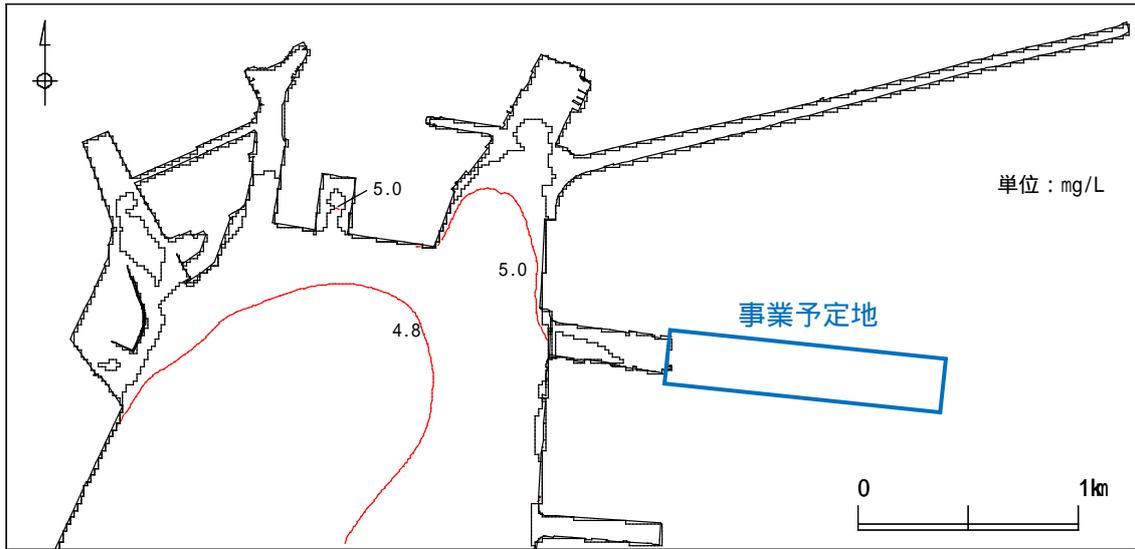
注) 等高線は 4.8mg/L 以上で 0.2mg/L 間隔である。

図 2-5-16(3) 防潮壁と埋立地両方の存在時の水質 (COD) 予測結果
中層 (2.6m ~ 7.0m)



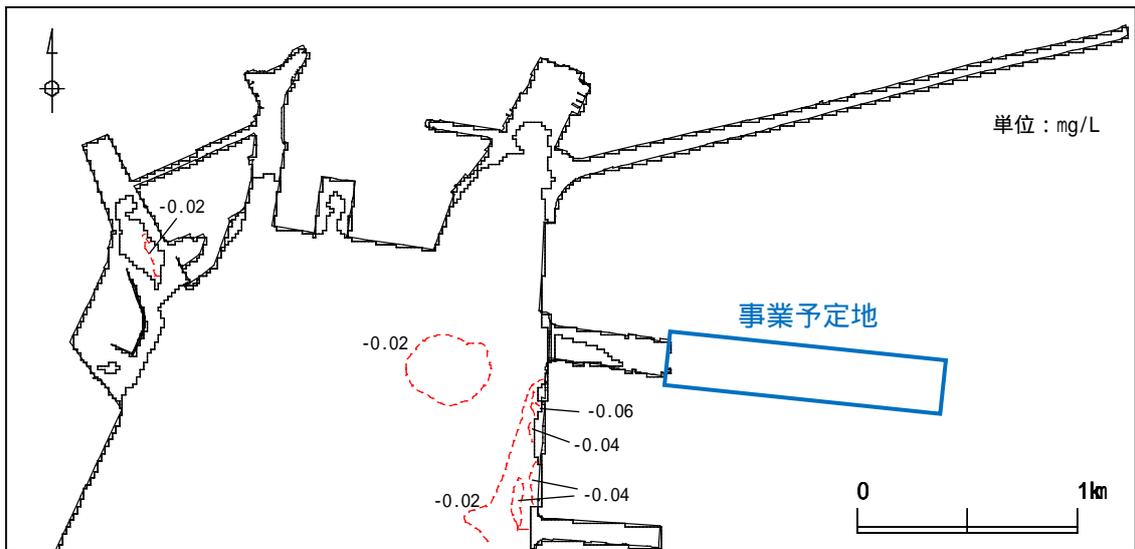
注) 増加は実線、減少は点線。等高線は 0.02mg/L 間隔である。

図 2-5-16(4) 防潮壁のみ存在時、防潮壁と埋立地両方の存在時の
水質 (COD) 変化の差分図 中層 (2.6m ~ 7.0m)



注) 等高線は 4.8mg/L 以上で 0.2mg/L 間隔である。

図 2-5-16(5) 防潮壁と埋立地両方の存在時の水質 (COD) 予測結果
下層 (7.0m ~ 海底)



注) 増加は実線、減少は点線。等高線は 0.02mg/L 間隔である。

図 2-5-16(6) 防潮壁のみ存在時、防潮壁と埋立地両方の存在時の
水質 (COD) 変化の差分図 下層 (7.0m ~ 海底)

(4) 評 価

予測結果において、埋立地の存在による水象の変化は小さいと予測されること、COD 増加値は最大 0.25mg/L であり、この値を現況調査結果における各地点の COD75% 値に足し合わせても、名古屋市の環境目標値 (5mg/L) を下回ること、また、事業計画より、新たな汚濁負荷となる排出はないことから、埋立地の存在による水質・底質への影響は小さいと判断する。